

18 明治9年8月26日 菊池長閑

第八号八月廿六日記

第五号七月三十日達日数六十一日也三人写之写真達たる事ハ第五号ニ

申入候答報知新聞之義何れ之怠なるや実ハ遠隔之此地ニて問合も何分六ヶ敷存過居たる処去月下旬馬場練兵下着去ル十五日出發登京ニ付同人エ委敷相談頼猶那珂小太郎も去ル十三日ニ而禁錮も相済ミ同廿三日家内引連登京ニ付是エも藤村之事依頼致候間右兩人ニ而向々問合一左右可有之夫々向ひ取計可申手数又ハ面倒を厭ふニあらされとも岩手県ニ而東京エ之注文向品ニ寄甚六ヶ敷事而已有之込果候ト一チエスタルと申処へ転居之由爾後肩書も其処可記と思はれ候得共番号も不申来故地名のミ認而ハ却而不都合も可有之と存先是迄之通記候右ニ而不都合候ハ番号早便可申越候此度之処ハ一体宜花樹又ハ眺望も能場所之由第一家内之信切ニ世話する事安心ニ候試検も五月廿六日ニ済し未だ礎と不知共悪かりまし右之考え趣一段と存候礎究候ハ等級等も委敷承度休ミも十月迄四ヶ月間之由凌方如何ニも察入候然し気さへあらハ幸ニ博覧会を始処々見物も出来さうに候一体休暇日数之多き如何なる事歟

前号にも申入たる通去月六日己来雨無之旱魃ニ而丘物大入り園中ハ三面水田故外之石地ニ此すれハ湿もある筈なるに大根杯ハ每畦二三株などは不生故種子ハ枯たる物と究置たる処去ル十七日八日と相応エ雨引統折ニ経雨爰ニ至而丘作色を直し大根も當時ハ欠株なく生育したり水田も沢水堤懸ハ猶込年なるへし先ツ田家ニハ其憂有之間敷候

家禄も別紙之通年限定期十二年ハ差置籤当之六ヶ年目さへ待遠と思はれ候況や三十年をや御邸ニ而上邸ハ波岡と板垣御手ハ一人も橋場ハ山屋上田計リ外ハ御下し也新庄ハ家従五人御免令有リ

扶も是から当番するよし

藤田も去ル三日松前之向出立八日ニ函館ニ着岸之処直ニ開拓使十二等出仕被命来月初ニハ福山在勤可成之同十一日附ヲ以申来リ

此度胆沢県属胆沢郡江刺郡岩井郡氣仙郡之四郡又青森県内ハ二戸郡と都合五郡当県へ合艸高も是迄之一倍ニ成りたるよし宮古嶽ヶ崎ハ十四大区之処改正ニ而十九大区ニ相成候以上

武夫殿

長閑

尚以家内近親平安なり

(別紙)

第八号

家禄賞典禄之義永世一代或ハ年限等ヲ以給与有之処其制限を改来ル明治十年ノ別紙条例之通公債証書ヲ以一時ニ下賜云々

明治九年八月五日

太政大臣三条実美

金禄公債証書発行條例

第一条 華士族及び平民共各自之家禄賞典禄給与之制限を改メ

一時ニ之を下渡する事と為し以て公債証書を付与すへし

一 永世禄之者エハ

金禄元高賞典禄ある者ハ家禄ニ合計シ元高トス

年限

七万円以上

五ヶ年分

六万五千元以上ノ四字ノ略シテトス下做之

五ヶ年分  
ケ年也  
五万二千五百圓

五々々々  
四々々々  
五々々半  
五々々七分五厘

(注記1)三々々々

六々々

二々々々

六々々二分五厘

一々々々

六々々半

七千五百円以上

千五百円又々々トス

六々々七分五厘

五々五々々未滿五千円以上

七々々

二千五百円以上

七々々二分五厘

千〇〇々々

七々々半

右一ヶ年五分ノ利子を給す

九百円以上

七ヶ年七分五厘

八々々々

八々々

七々々々

八々々二分五厘

六々々々

八々々半

四々五十円々

八々々七分五厘

四々〇〇々々

九ヶ年

三々五々々々

九々々五分五厘

三々〇〇々々

九々々七分五厘

二々五々々々

十ヶ々

二々〇〇々々

十々々二分五厘

百々五々々々

十々々半

(注記2)百〇〇々々

十一々々

右一ヶ年六分ノ利子ヲ給す

七十五円以上 十一ヶ年半

(注記3)五〇〇々々 十二々々

四〇〇々々 十二々々半

(注記4)三〇〇々々 十三々々

二五々々 十三々々半

二々々々以下 十四々々

右一ヶ年七分ノ利子ヲ給ス

一修身祿之者云々

一年限祿之者云々

第二条 此公債証書之利子下ケ渡しハ明治十年分は十一月翌年

五月ニ相渡し已後之ニ準ス年ニ兩度ニ下ケ渡す事トす

第三条 家祿賞典祿元高を付与する年限ニ寄テ利子ノ差異を生

する時元高ニ向テ公債証書仕与する制限左之如し

一金壹万円 家祿賞典祿合高

此六ヶ年半分金六万五千円此公債証書之利子一ヶ年五分

金三千二百五十円ト成る

一金九千九百円 家祿賞典祿合高

此六ヶ年七分五厘分金六万六千八百貳拾五円此公債証書

之利子一ヶ年五分金三千三百四十一円廿五銭ト成る

右比較九千九百円之方利子九十一円廿五銭ノ通と成る然る時

ハ壹万円ノ利子金額ニ超過せざるヲ以制限となす故に九十一

円廿五銭を引去利子三千二百五十円ニ適當する公債証書下ケ

渡ヲ以て規則トす其他右ニ類似之件ハ皆之ニ準す

第四条 此公債証書ハ利子ノ差ニ因リ區別ありと云共其發行す

る種類ハ左の如し

五円 十、廿五、五十、百、三百、五百、  
千、五千、

第五条 前条公債証書ヲ付与する時ニ当り公債証書ニ未滿之端

金ハ都て通貨ニて相渡すへし

第六条 此公債証書之元金ハ五ケ年間之を据置六ケケ年目大

蔵省之都合ニ寄毎年抽籤之方法ヲ以之を消却し都合三十

ケ年間ニ悉皆之を消却すへし順序

第七条 此公債証書発行ニ付て之順序其外とも此條例外之事件

ハ却而新旧公債証書発行條例之通たる事と心得へし

第九号

今般第九号ヲ以テ布告候金禄公債証書之義ハ追て指令ニ及ふ

迄書入質入并売買約定取結候義ハ禁止候条此旨布告候事

明治九年八月五日

太政大臣三条実美

(注記1)

「御私邸ハ六ケ年分ノ由」

(注記2)

「上士ハ百円以上ニ付十一ケ年分」

(注記3)

「中士六十円某ニ付十二ケ年分」

(注記4)

「下士ハ三十円某ニ付十三ケ年分」

(封筒裏)

「利加国ホストン府」

「ドウイン。ストリート

二十二番地

菊池 武夫 殿

要書報平安

(封筒裏)

「日本陸中国盛岡岩手県

第一大区五小区加賀野

八十六番地

菊池 長 閑

(武夫注記) 八月廿六日記

(武夫注記)

「Was not put address. Explain way I new mini paper.」